

タイムリーで充実した情報が大学現場を変える：

## 聴覚障害学生支援のためのワンストップ型ナレッジベースの構築

筑波技術大学 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）

白澤麻弓, 磯田恭子, 中島亜紀子, 萩原彩子, 吉田未来, 岡田雄佑,

佐藤さつき, 飯塚眞由美, 森脇千賀子

### 1. 背景と目的

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は、CTC 未来財団の助成を受け、2020 年 4 月から「オンライン授業での情報保障に関するコンテンツ集（以下、コンテンツ集）」を公開してきた。このサイトは、コロナ禍で急速に広がったオンライン授業において、聴覚障害学生の対等な参加を保障するために必要なノウハウを発信するために作成されたもので、タイムリーに実践的なノウハウを提供したことが評価され、多くの利用者の支持を得た。その結果、2020～2022 年度には、1 日あたりの訪問者数が平均して 500 人を超え、全国の大学や教育機関で広く活用されるものとなった。

しかし、新型コロナウイルスの勢いが弱まり対面授業が増加した 2023 年以降、サイトの訪問者数は徐々に減少し、同時に情報の一覧性・検索性等の面で課題が指摘されるようになった。具体的には、①オンライン授業の情報保障に関するノウハウはコンテンツ集に集約されている一方で、従来の対面授業におけるノウハウは既存の PEPNet-Japan サイトに掲載されており、全体を統一的に閲覧できない。②キーワード検索機能がなく、手段別・対象別のメニューはあるものの、コンテンツの表示順が整理されていないため、目的の内容にたどり着くまでに時間がかかる。③まとまった情報はマニュアル等の形で発信されているが、より最新の情報をいち早く入手できる形態にはなっていないなどの問題があった。

そこで本事業では、これらの課題を解消し、利用者にとってより利便性の高いサイトを構築するため、これまでに開発してきたコンテンツ集をリニューアルし、既存の PEPNet-Japan サイトで公開してきた教材もこちらに移行することで、必要な情報を一元的に管理・閲覧できるワンストップ型のナレッジベースの構築を目指した。

### 2. 研究の経過および成果

本事業では、2020 年に公開したコンテンツ集を基盤に、聴覚障害学生支援に関する情報を包括的に取り込み、検索性・一覧性を向上させた「聴覚障害学生支援のためのナレッジベース」を設計・構築し、2024 年 6 月に公開した。ここでは、豊富なコンテンツに容易にアクセスできるよう検索性・一覧性を向上させたほか、支援現場で「今」必要とされている情報をタイムリーに提供していくことができる Tips 集を追加し、利便性の向上を図った。

以下、本事業において取り組んだ内容について、経過と成果を合わせて記載する。

#### 1) 情報の整理と統合

既存の PEPNet-Japan サイトには 200 種類以上、コンテンツ集には 40 種類以上のコンテンツが掲載されていた。このうち、FAQ などいくつかの情報が束ねられているページについては、1 つ 1 つの項目を Tips 集として再編集するなどして、計 86 種類のコンテンツをナレッジベースに収録した。この際、情報が古くなってしまったコンテンツ等は、「これまでの成果物一覧」としてアーカイブ化した。また、各種研修会や海外視察の報告書など時限付きの情報や、はじめて聴覚障害学生の支援を担当される方々に読んで欲しいコンテンツなどは、PEPNet-Japan サイトに残すこととした。

## 2) メニューの再構成と検索性の向上

ページ上部に設置されているメニューバーの項目を見直し、上記 8 6 種類のコンテンツを効果的に検索できる内容に変更した（図 1）。また、対象者や支援手段、トピック、情報種別といった多様な検索項目からあてはまるものを選択し、コンテンツを検索することのできる検索メニューを追加した他、キーワード検索を新設し、さまざまな角度から目的のコンテンツを検索することのできる形に修正した（図 2）。さらに、すべてのページの右上に、こうした検索メニューへのリンクを設置するとともに、検索結果は、「注目コンテンツ順」「新着順」「更新順」の 3 種類に並び替えできる機能を追加した。

## 3) Tips 集の新設

これまでのコンテンツ集では、マニュアルや事例集の形で情報を掲載していたため、こうしたコンテンツにまとまるまでは情報を発信できないというもどかしさがあった。このため、最新の情報保障ツールに関する情報や現場で活用できる知識などを気軽に発信できる「Tips 集」を新設し、42 種類の Tips を掲載した（図 3）。

## 4) PEPNet-Japan サイトトップページの改変

既存の PEPNet-Japan のトップページには、ナレッジベースへの入り口を設置し、Web サイトを訪れた方が、スムーズに必要な情報にたどり着けるよう誘導できる形にした。あわせて、はじめての聴覚障害学生支援に取り組む方々に対しては、基本的な情報を厳選して伝えるため、別の入り口を設けてまず知って欲しい事柄にたどり着ける構造に変更した（図 4）。

## 5) 既存コンテンツの更新

既存の PEPNet-Japan サイトに掲載された情報は、2004 年の設立以来蓄積されてきたもので、障害者差別解消法の成立以前に作られたものも多数含まれていた。特に、「はじめての聴覚障害学生支援」や「聴覚障害学生支援 FAQ」などは、かなり初期の段階に作成したものであったため、リニューアルを機に内容を一新し、最新の情報が得られる形に変更した。



図1 新たに作成されたメニューの内容



図2 新たに設置された検索メニュー



図3 新たに設置した「Tips集」



図4 トップページに設置した二つの入り口

### 3. 今後の課題・展望

本事業では、PEPNet-Japan が長年にわたり蓄積してきた情報資源を効果的に共有・発信していくためのナレッジベースを構築・公開した。この中では、メニューバーの改善やキーワード検索の新設など、ユーザビリティの向上に努めたが、豊富なコンテンツをよりわかりやすく提示していくためには、さらなる改善も必要とされている。また、新設した「Tips 集」で、どのような内容を掲載していくかについても検討が必要と言える。これまでに伺った意見の中では、「聴覚障害学生や支援学生、支援担当教職員の生の声を聴きたい」「成功例のみでなく、失敗を含む体験談を共有して欲しい」といった要望が挙げられていた。今後は、こうした意見を生かし、より充実した情報発信に努めていきたい。

また、全国の大学で効果的な支援を行っていくためには、単なる情報発信にとどまらない包括的なアプローチも必要といえる。具体的には、情報保障者養成のための e-Learning システムの構築や、大学の垣根を超えて支援者を共有していくための相互派遣システムの確立等、人材の確保と養成に寄与する取り組みなどが考えられる。こうした取り組みは、多くの大学が直面している支援者の不足や偏在により直接的にアプローチするもので、関係各方面から期待されているものである。

このほか、聴覚障害学生支援を取り巻く領域では、中軽度難聴学生への支援、音声認識技術の効果的な利用方法の周知、手話通訳の導入にまつわるノウハウの蓄積、聴覚障害学生の特性に関する理解拡大など、取り組むべき課題はたくさん残されている。これらの課題を解決し、より多くの聴覚障害学生に平等な教育機会を提供していくために、関係各所との連携を深めながら、今後も継続的な取り組みを進めていきたい。

以上